

みやぎの 林業だより



表紙写真

美味しい秋の恵み「きのこ」の取り組みを御紹介します。

関連記事：P. 2～3

平成22年11月10日
発行

192号

目次	話 題	◎仙山交流味祭 in せんだい～秋の恵み～が開催！	2
		◎「秋のひっぽ御膳」登場！	2
		◎特用林産物の振興～「きのこ」を活用した商品開発～	3
		◎「めんこいなめこ」のめんこい従業員たち	3
		◎平成22年度農林産物品評会を開催！	4
		◎官民挙げて木の文化をPR！	4
		◎残さず使えるスギ間伐材～木質バイオマス利活用～	5
		◎地域の貴重な松を守る	6
		◎東北地方で初めて！	
		マツノザイセンチュウ抵抗性クロマツ種子の供給を開始	6
		◎「ナラ枯れ被害」警戒中～防除体制の推進について～	7
		◎作業道開設現地研修会の開催	7
		◎南三陸山の会が最優秀賞！	
		「東北・北海道ブロック平成22年度林業グループコンクール」開催	8
		◎林業労働力確保の取り組み 林業就業・雇用講習の開催	8
		◎林業労働安全に協力を～リスクアセスメントのすすめ～	8
		◎角田市の林野火災被害地の復旧に向けて(その2)	9
		◎岩手・宮城内陸地震「復興支援植樹会」開催！	9
		◎第36回宮城県みどりの少年団大会開催される	10
		◎企業等と力を合わせて里山の再生を！	10
	◎「宮城県森林土木業務成果発表会」の開催	11	
	◎林道「女川京ヶ森」線の開設状況について	11	
シリーズ	◎研究情報コーナー		
	加美町天然記念物指定『鹿島神社・御神木スギ』の後継樹を養成	12	
市況	◎木材市況の動向・特産市況の動向	13	

仙山交流味祭の「せんだい」が開催!

去る九月二十九日から三十日に仙台市勾当台公園市民広場において、仙山交流味祭inせんだい。秋の恵み〜が開催されました。

仙山交流味祭は、仙台地域と山形県村山地域二十八市町村区域で生産された農林産物をはじめとした地域特産物を一堂に集め、生産者自らの直接販売を通して「ひと」「もの」「情報」の交流をさらに活発化させるとともに、仙山圏における地産地消を推進するため行われているもので、今年で八年目を迎えます。両日とも天候に恵まれ、来場者は二日間で二万五千九百人でした。

特用林産関係では、当県から農事組合法人麓上舞茸生産組合がマコモタケ、舞茸、ハタケシメジを販売し、JA仙台椎茸生産組合(熊谷しいたけ園)が生椎茸、乾椎茸を販売しました。

一日目に原木椎茸を購入した方が、「美味しかったから、また買いに来ました」と翌日も会場を訪れるなど、大盛況でした。

仙山交流味祭の目的である、生産者自らの直接販売を通して「ひと」「もの」「情報」の交流が大いにできたように思います。今後も生産者と協力しながら販路の拡大などを支援していきたいと思えます。



沢山の人、人、人でした!



(林業振興課)

秋のひっぽ御膳登場!

晩秋の丸森、「ひっぽ森林のレストラン」に、ムラサキシメジを使った期間限定ランチメニューが登場します。女将さんは、「ムラサキシメジと野生きのこが手に入れば期間が過ぎても提供したい」と、食材の発生を待ちかねています。

この特別企画は、昨年実施された、宮城蔵王三十六景「おもてなしランチメニュー」料理レシピコンテストで受賞した三店で実施されます。

仙南地域の食材を使った特別メニューが皆様をお待ちいたします。詳しくは、大河原地方振興事務所のウェブページを御覧ください。



昨年の受賞メニュー

特別企画ランチメニュー

- ◆ひっぽ森林のレストラン
「秋のひっぽ御膳」 1,500円
10/21(木)~10/30(土) 定休 水曜
- ◆仙南シンケンファクトリー
「シンケングルメランチ」 1,600円
11/8(月)~11/14(日) 定休 無
- ◆山景の宿 流迎りゅうせん
「みやぎ蔵王三十六景青根膳」 1,575円
11/1(月)~11/30(火) 定休 無

※価格は全て税込み



最優秀賞の受賞式

(大河原地方振興事務所)

特用林産物の振興

「きのこ」を活用した商品開発

仙台管内のきのこの消費拡大を図るため、生産者と地元企業との協働による「原木しいたけ」、「マイタケ」、「ハタケシメジ」を使用した「駅弁」と「フランスパン」の商品開発が実現し、この秋、新商品として販売されました。

しいたけを提供した生産者は、仙台市泉区の熊谷幸夫さんと大郷町の渡辺泰行さんで、両者とも原木栽培にこだわった品質はもちろん味や栄養価的にも自慢のしいたけを提供しました。

一方、大和町の麓上舞茸生産組合（佐藤組合長）から、品質重視の栽培に長年取り組み、味・香り・歯ごたえに好評を得ているマイタケと、今年から新たに生産を始めたハタケシメジを提供しました。

こうした地元産のきのこを使い、商品開発に取り組んだのは、駅弁の製造販売を手がける株式会社日本エンタープライズとパンを製造販売する株式会社メゾンカイザー仙台店の二社で、両

社はこれまでも地産地消を意識し、生産者と連携したオリジナル商品を開発しています。

今回の新商品は、両社の担当者が生産現場に足を運び、生産者と直接話をして生産現場の実情に理解を深め、「森の恵み」や「秋の味覚」をイメージして、これまで考えられなかった食材の組み合わせや新たな調理法が提案されたものです。

駅弁はJR仙台駅で、パンは仙台市泉区のタピオと三越で、十一月月上旬までの期間限定で販売していきますので、是非ご賞味ください。



（仙台地方振興事務所）

「めんこいなめこのめんこい従業員たち」

次代担い手に大きな期待！

林業従事者の高齢化・後継者不足が叫ばれる中、きのこ業界も例外ではありません。自身の高齢や後継者不足を理由に、きのこの栽培を辞めると言うケースが年々増えてきています。

そのような中、従業員八名中六名が十代という、正にフレッシュなきのこ生産団体が大崎市松山に現れました。

四月からきのこ栽培を開始したのは栗原市に本社がある（有）つきだて茸センターで、系列の「築館なめこ生産組合」と合わせると県内ナンバーワンのなめこ生産量を誇っています。

新入社員を代表して二人の女性社員にお話を伺いました。

きのこ会社に入社した動機は実に単純で、きのこが好きだからとのことでした。

入社して半年が経過し、最近では、仕事にも慣れてきたそうで調子よく出来た時はやり甲斐や達成感を感じるそうです。ただ、袋詰・箱詰めは二人だけで行っているため、なめこの収穫が多い時は、遅い時間まで頑張

らなくてはならず、ちょっと大変だそうです。

スーパーではいついついなめこのコーナーに目がいってしまいうそうです。でも、なめこの中でも自社の「めんこいなめこ」が一番美味しく感じるそうです。

この商品名「めんこいなめこ」の命名は代表取締役の菅原さんの奥さんが命名したそうだが、菅原さんにとっては、「なめこもめんこいけど、それよりも若く素直な従業員が一番「めんこい」そうです。



菅原代表取締役と従業員の皆さん
8人中6人が10代です



菌床の栄養体成分に工夫しネバネバが強く歯ごたえがあり天然ナメコに近いです

（北部地方振興事務所）

平成二十二年度 農林産物品評会 を開催!

去る十月十五日から十七日に県庁行政庁舎において、農林産物品評会が開催されました。

農林産物品評会は、農業者と生産意欲の高揚と生産技術の向上を図り、農林産物の生産振興に寄与することを目的に、今年で六十二回目を迎えます。

初日に出品物の「生しいたけ」、「くり」の二品目について厳正な審査を行い、翌日から二日間、県庁一階ホールにて展示した後、販売を行いました。

展示期間中は、「みやぎまるごとフェスティバル」が開催され、天候にも恵まれたことから、展示初日の午後には、全て予約され、品質の高さを感じる事ができました。

来場者は、昨年並みの十六万五千人(みやぎまるごとフェスティバルと合わせて)でした。

入賞者は、以下のとおりです。皆様、おめでとございました。

農林水産大臣賞

生しいたけ(原木)

仙台市 熊谷 幸夫 氏

林野庁長官賞

生しいたけ(菌床)

大崎市 氏家 勇喜 氏

食用茸協同組合長賞

生しいたけ(原木)

登米市 芳賀 裕 氏

森林組合連合会長賞

生しいたけ(菌床)

大和町 セツ森菌床椎茸生産組合

林業振興協会会長賞

生しいたけ(原木)

仙台市 熊谷 幸江 氏

特用林産振興会長賞

くり 筑波

仙台市 株式会社白松がモナカ本舗



農林水産大臣賞 仙台市 熊谷幸夫

(林業振興課)

官民 挙げて木の文化をPR!

「ミニ上棟式」を盛り上げる

去る八月三日・四日の両日大崎市古川夏まつりのイベントとして、「ミニ上棟式」が行われました。

上棟式は、伝統的木造住宅を新築する際に行われる神事です。が、残念なことに建売住宅が多くなってきている昨今、中々目にする機会が無くなっていきます。その上棟式を大崎市古川建築大工組合が、夏まつりのイベントとして行うこととしたものです。

当組合では、地域貢献活動として、毎年児童向けに木工教室を行ってきましたが、今年は夏まつりに併せて、会場に訪れる多くの方々に「木の文化」を再認識してもらおうと、「ミニ上棟式」を是非行いたい旨の相談が当事務所にあつたものです。

そこで、事務所が橋渡し役となって、地元森林組合や県北部流域森林・林業活性化センター大崎支部、県林業技術総合センター等の協力と連携の下に、丸太の調達・製材加工などの準備を行うことが出来ました。

当日は、熟練した職人たちにより、約三坪の木造ミニハウスが建設され、厳粛な空気の漂う中、神官により神事が行われました。

神事終了後には、餅まき・まき銭が行われたほか、丸太切りやカンナかけ等の体験、「みやぎの木づかい運動」の一環として、会場に併設された県産木材のPRコーナーにてパネル展示・端材マーケット・森のゲームが行われ、老若男女問わず多くの方が集まり、暑さも忘れ楽しんでいました。



私のところにも餅まいて!



二人で仲良く丸太切り

(北部地方振興事務所)

残さず使えるスギ間伐材 木質バイオマス利活用

県では、間伐材等の未利用材の利用率を向上させるため各種施策を展開しているところであり、平成二十一年度からスタートした木質バイオマス利活用推進対策事業もその一つです。

また、宮城県森林組合連合会では、石巻地区森林組合とセイホク株式会社と連携し、平成二十年度から二カ年間に「木質資源利用ニュービジネス創出モデル実証事業(林野庁補助事業)」に取り組み、林地残材の効率的な搬出について実証試験を行いました。



長尺材で土場までの運搬

事業の結果としては、破碎手法は移動式チップパーより固定式チップパーが有利であること、効率的な作業を実現するために、効果的な作業を実現するために、率は、施業集約化を図る必要があり、目安は約当たりの素材生産量が百立方メートル以上、事業地当たりの生産量五百立方メートル以上となりました。

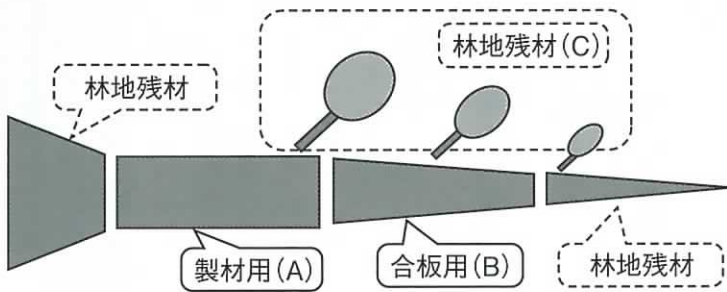
最適な林地残材収集方法は、高密度路網を作設し、高性能林業機械(プロセッサ)で造材作業を行うことが効果的であり、さらには、土場まで全木(長尺)で運搬し、造材作業を行うことにより低コスト化が図られるといった成果が示されました。

当該事業による林地残材(C材)の搬出量は、間伐百十約で



全木による運搬作業の効率化

約五千立方メートルとなり、ボードや製紙原料、ボイラーの燃料として利用されました。
平成二十一年度からスタートしている木質バイオマス利活用推進対策事業は、主伐や間伐の際に発生する林地残材の搬出を進めようと、ストックヤードの整備、搬出経費、作業路の整備(間伐事業地に限る)に対し補助するもので、主伐の場合は最大で立方メートルあたり千七百円、間伐



林地残材…運搬路が無いなどの理由で搬出されない間伐材や用材としての利用が困難なため林内に放置される曲がり材・根元材等をいう。

で立方メートルあたり約五千円の補助金となります。平成二十三年度が最終年度となりますので、さらなる事業の御活用をお願いします。

今後、木質バイオマス利用の流れは、益々高まっていくと考えられ、どうしたら効率的に未利用材等を搬出することができかが課題となっています。低コストで搬出するシステムの構築が急務であり、低炭素社会実現に向け、また、森林整備や木材利用促進のため、皆さんの御協力を得ながら進めていきたいと思っております。



チップ化された林地残材

(林業振興課)

地域の貴重な松を守る

利府町みどりの少年団 「松再生プロジェクト」始動

去る六月二十七日に、利府町みどりの少年団による抵抗性アカマツ苗木の植栽活動が、利府町赤沼地区の国有地で行われました。

この植栽地は「特別名勝松島」の区域内に位置し、通称「瑞鳳ヶ丘」とも呼ばれ、松島湾内を眺望できる場所としても地域住民や観光客らに親しまれているところでしたが、過去に松くい虫による被害が発生したことで、被害拡大を防ぐために多くの松が伐倒されてきました。そして、その後は植栽されずに放置され、松林の有する独特な景観などの多面的な機能が損なわれつつあります。

そこで、こうした地域の貴重な松林を再生しようと利府町みどりの少年団による「松再生プロジェクト」として、抵抗性アカマツの植栽が行われることになりました。

当日は、みどりの少年団員十四名と保護者、町職員等を含め約三十名が、早朝より県林業技術総合センターで五十本の

抵抗性アカマツの苗木を掘取りし、その後、植栽会場へ移動して、林業普及指導員から、松の役割や松くい虫による被害の仕組みについて説明を受け、伐採跡地へ植栽を行いました。

利府町みどりの少年団では、秋には、植栽地の刈払いを計画しており、今後も植栽したアカマツの保育作業を行い、地域の貴重な財産を見守っていくそうです。



(仙台地方振興事務所)

東北地方で初めて!

マツノザイセンチュウ抵抗性 クロマツ種子の供給を開始

宮城県のクロマツ林は、沿岸部の潮害防備林を中心に、私たちの生活環境の保全に重要な役割を果たしています。松くい虫による被害が深刻な問題となっけています。そのため、松くい虫被害に強いマツ林の造成に必要な、マツノザイセンチュウ抵抗性種苗の早期供給が望まれています。

林業技術総合センターでは、平成四年度からマツノザイセンチュウ抵抗性品種の開発に取り組み、これまでにクロマツ七品種、アカマツ四品種の開発に成功しています。これらのクロマツ抵抗性品種を活用して、平成十五年度から採種園の造成に着手し、改良を行い、平成二十一年十一月には、抵抗性採種園として林業種苗法に基づく育種母樹林指定を受けています。

この度、この採種園から種子を採取し、抵抗性クロマツ種子として供給を開始することになりました。予定としては十一月二日に球果を採取し、精選後の種子を、来年春からの播種・育

苗用として、宮城県農林種苗農業協同組合へ販売していくこととしていきます。

今回の抵抗性クロマツ種子の供給は東北地方では初めてであり、今後宮城県産の抵抗性クロマツ苗木の供給が開始されることとなります。

なお、苗木の供給は、マツノザイセンチュウ接種済健全苗として出荷するため、平成二十六年以降になる見込みです。

林業技術総合センターでは、アカマツについても抵抗性種子の供給を目指しながら、必要な品種開発や採種園の改良等を行い、宮城県のマツ林の復旧、保全に貢献していきます。



抵抗性クロマツ採種園

(林業技術総合センター)

ナラ枯れ被害警戒中 防除体制の推進について

本州の日本海側を中心に猛威を振るっていた「ナラ枯れ」が、当県でも昨年度、大崎市鳴子温泉で初めて確認されました。その後、七ヶ宿町、仙台市などで被害の発生が確認され、二十一年度は二市三町で計百七十九本の被害量となりました。

被害の発生を受け、県では関係行政機関や林業事業体に対して、防除方法などの講習会を開催し防除体制の整備を推進してきました。

今年度は二十一年度に確認された被害木の駆除作業を進めながら、新たな被害の発生に備えて、被害発生市町、国有林関係者等により対策会議を開催し、被害の発生の状況などについて情報交換を行うとともに、国有林・民有林関係者による合同現地調査を実施しました。

また、地上からの調査だけではなく、上空からの防災ヘリコプターによる空中探査を行い、地上からの発見が難しい箇所調査を実施しました。

被害調査は八月下旬から実施

しており、今年度の被害量が確定するのはまだ先ですが、現時点では、昨年同様若しくは拡大傾向にあると推測され、警戒が必要と見られます。

今後とも被害の抑制を図るため早期駆除に向け関係機関連携により取り組んでいきます。

なお、コナラなどの枯損木を見かけましたときは、最寄りの市町村、県地方振興(地域)事務所林業振興班等に情報提供をお願いします。



ナラ枯れ被害木

(森林整備課)

作業道開設現地研修会の開催

去る六月二十八日、気仙沼市内において作業道開設現地研修会を開催しました。

これは、森林所有者へ収益の還元を図ることと事業体の採算性確保を目的とした「提案型集約化施策」の推進に路網整備が不可欠であることから計画したものです。

参加した森林組合の担当課長や設計者は、特に路網設計に必要な自然の摂理にあった壊れにくい作業道の開設について理解を深めました。

最初に、気仙沼市森林組合会議室において、林野庁編集「低コスト作業路養成センター編集」荒林業技術総合センター編集「荒れにくくかつ安全な路網開設」の資料により、林業普及指導員が説明を行い、その後、既設作業道二路線に場所を移し、現地検討会を行いました。

参加者からは、「事前に現地踏査を繰り返す。現地踏査が一人では悩む」「急斜面は無理して開設しない」「過伐を避けるため、先行伐採はしない」「水処理の工夫が崩壊を防ぐ」「現場

はオペレーターだけに任せない」「新たな工法を学ぶことができた」といった意見がたくさん寄せられました。



開設に当たって苦労した点などの説明



丸太組工法(洗い越し)について確認

(気仙沼地方振興事務所)

南三陸町山の会が最優秀賞!

東北・北海道ブロック◆平成二十二年
度 林業グループコンクール 開催

去る九月二〜三日、栗原市において、県・宮城県林業研究会連絡協議会・全国林業研究グループ連絡協議会共催により「東北・北海道ブロック 平成二十二年度林業グループコンクール」が開催されました。各道県から選ばれた林業研究グループの代表が、日頃の活動や成果について発表しました。発表は木材利用拡大に向けた取組にはじまり、マツタケ増産に向けた取組や産直経営、森林環境教育など多岐に渡り、他の参加者の方々も熱心に聞き入っていました。

この中で、宮城県代表の南三陸町山の会(南三陸町)の高橋長晴会長が「南三陸杉」 「森林」づくり、「人」づくり、「地域」づくりと題して発表し、最優秀賞を受賞しました。

南三陸杉の生育調査や、材としての特徴を基礎データに用い、利用拡大に向けた取組を丁寧に説明し、綿密な調査データに基づいた発表内容から、審査員の高い評価を得て、今回の受

賞となりました。

同会は来年三月に東京で開催される全国林業グループコンクールで、東北・北海道ブロック代表として発表されます。発表会終了後は、東北大学院清和教授による「森林の種多様性の回復と林業の振興」、くりこま耕英震災復興の会の金澤氏による「栗駒市耕英地区の震災復興」と題した記念講演が併せて行われました。

また二日目には、平成二十年に発生した岩手・宮城内陸地震の被災地を視察し、参加者は今回の被害の大きさと復旧状況に驚いていました。



発表の様子

(気仙沼地方振興事務所)

林業労働力確保の取り組み

林業就業・雇用講習の開催

去る九月十五日、宮城県林業技術総合センターにおいて林業就業・雇用講習が開催されました。

この講習は、林業への就業希望者を対象に、林業就業支援講習や緑の研修生に誘導することを目的として開催されました。

当日は三十七名が参加し、林業への就業に関する講習、森林・林業に関する基礎講座、緑の研修生の経験談、刈り払い・伐倒作業の体験、高性能林業機械の実演等が行われ、特に先輩の経験談では質疑応答が活発に行われました。



玉切り作業に挑戦する参加者

(林業振興課)

林業労働安全に協力を リスクアセスメントのすすめ

皆様には、常日頃より林業の労働災害防止についてご尽力頂き感謝申し上げます。

さて、今年の林業労働災害発生状況をみると、九月七日現在、全国で四十名の方が亡くなられ、昨年同月比で十二名の増加と憂慮すべき事態となっています。宮城県では九月末日現在、林業従事者の皆様のご努力により死亡災害はゼロですが、二十四名の方が休業四日以上以上の死傷災害に遭われています。

労働災害を防ぐには、日頃から道具の備えはもちろんのこと、心の備えも必要です。この両方に有効なのが、リスクアセスメントです。リスクアセスメントは、作業現場で労働災害が発生しそうな危険なところを前もって全般的に洗い出し、事前にどれくらい危険なかを体系的に評価し、その評価の大きさに従って対策を実施するものです。職場のみんなで当事者意識を持ち、考え、意識を共有し、労働安全を推進できるように私たちがサポートしてまいりますので御協力をお願いします。

(林業振興課)

角田市の林野火災被害地の復旧に向けて
 その二

本紙第百八十九号に掲載した「角田市の林野火災被害地の復旧に向けた取組み」のその後について紹介します。

これまで、仙南中央森林組合ほか関係機関の御協力により作業が進められています。被災地の中央部を横断する一千以上の作業道が完成、被害林のうち十六分の伐採が完了し、四千立方メートルが搬出・利用されました。

跡地は、被害材を利用した丸太筋工や植栽工など治山事業による復旧が進んでいます。

今後については、昨年六月に設置された「島田地区森林再生検討会」が、五回にわたって開催した検討会議を経て「復旧方針書」を作成し、平成二十四年度まで、進管理していくことを確認しました。

さらに、自主的な動きとして、民間企業や、角田市と友好関係にある東京都目黒区の小学生や区民による植樹活動など新たな動きも見られ、多様な主体による被害地の復旧と森林整備が期待されます。



治山事業による復旧状況



伐採木の搬出

(大河原地方振興事務所)

岩手・宮城内陸地震

「復興支援植樹会」開催!

「みんなで緑を取り戻そう」

去る九月二十三日に岩手・宮城内陸地震で大規模崩落が起きた栗原市栗駒耕英の冷沢地区において復興支援植樹会が行われました。

栗駒山に隣接する宮城、岩手、秋田の三県が共催し、公募で集まったボランティアや復旧工事関係者、栗原市の温泉宿泊施設運営会社「ゆめぐり」社員ら約七十人が参加しました。栗駒山の被災現場に緑を取り戻そうと、崩落防止工事を終えた斜面近くの造成地に、栗原市の市木のヤマボウシと秋に実をつけるヒメヤシャブシ併せて計三百本の苗木をあいにくの雨模様の中、参加者は鍬で掘った土に肥料を混ぜ、緑の再生と成長を願う、丁寧に植え付けを行いました。

植樹場所は日本画家の能島和明氏が所有する住居兼アトリエのすぐ裏手の復旧現場地で、今回植樹のために土地を提供されました。周囲には未だに土がむき出しになったままの土砂崩れ現場も残っています。

能島氏は「緑の再生には何十年もかかると思うが、今回の植樹会はとてもありがたい。美しい風景が今後の作品作りのヒントなる。」と話されていました。



集合写真



(北部地方振興事務所
栗原地域事務所)

**みどりの大切さを
みんなで楽しく学ぼう！**
**第三十六回
宮城県みどりの少年団大会
開催される**

去る七月二十三日、今年で三十六回目となる「宮城県みどりの少年団大会」が、利府町の宮城県民の森で開催されました。

当日はとても暑い日でしたが、県内各地から二十四団、約四百人が集まり、植樹活動・式典・交流会などが盛大に行われました。

植樹会場（カローラ宮城エコの森利府）では、少年団員が、ヤマザクラやヤマボウシなど広葉樹の苗木約三百八十本を一本ずつ丁寧に植樹しました。また、植樹の後は遊歩道を散策し、自然観察も楽しみました。

式典では、少年団から地元利府町長へ記念木が贈呈され、これを受けて町長から歓迎とお礼の言葉がありました。

活動発表では、塩竈市立第一小学校みどりの少年団が、工夫を凝らして日頃の活動内容を発表しました。

交流会及びレクリエーションでは、大会協力団体が準備した

体験コーナーで木工やゲームを楽しみながら団員の交流も深まり、みどりの大切さと友達の大切さを学ぶ、有意義な大会となりました。



植樹活動



交流会・レクリエーション

(自然保護課)

**企業等と力を合わせて
里山の再生を！**

みやぎの里山林協働再生支援事業

里山林は、森林資源を活用した持続的な農林業が幾世代にも渡って営まれたことにより造られた、生物多様性に富んだ大切な自然空間です。

しかし、農山村の過疎化や高齢化によって、里山林が利用されなくなり、大切な里山林が、次第に荒れつつあります。

一方、環境問題への関心が高まる中、環境に配慮した社会貢献の一環として森林づくりに取り組む企業等が増えていきます。

このため県は、「みやぎの里山林協働再生支援事業」により、森林づくり活動を行おうとする企業等と、活動の場を提供できる森林所有者との橋渡し役となって里山林の整備を支援しています。

この制度の対象となる里山林は、個人や団体等が所有している民有林で、十九か所二百九十四分の里山林が、企業等の活動場所の候補林として登録されています。

また、これまで森林所有者と企業等が協定を締結したのは十

件二十二分となっております。地元森林組合や森林インストラクターの協力を得ながら、企業等による里山林の再生が始まっています。

企業等に森林づくりの活動フィールドを御提供いただける方や、森林づくりに関心がある企業等の方は、環境生活部自然保護課又は最寄りの県地方振興事務所（地域事務所）の林業振興部（農林振興部）までお問い合わせ下さい。



社員家族も一緒に森林づくり

宮城県環境生活部自然保護課
みどり保全班
Tel 022(2211)2676
ホームページ (<http://www.pref-miyagi.jp/sizenhogo/>)

(自然保護課)

「宮城県森林土木業務 成果発表会」の開催

去る七月二十二日、宮城県林業技術総合センターにおいて森林土木業務成果発表会が開催されました。

この発表会は、森林土木業務を担当する職員が実務事例の検証と成果の発表を通じて、治山・林道事業における工法や技術の習得と職員の能力向上を図ることを目的に平成十五年度から開催しているもので、今回が七回目の開催となります(二十年度は岩手・宮城内陸地震に伴い中止)。

発表においては、現場発生資源の活用や、工事現場における木製品の利活用、新工法の提案などのテーマに対し、施工事例の紹介や成果の考察、今後の課題などが発表され、参加者や審査員からの多くの質問が出されるなど、意見交換が活発に行われました。

審査の結果、最優秀賞一名、優秀賞二名の受賞者が決定されました。受賞者は次のとおりです。

○最優秀賞

「治山地消し現場発生資源を現場で有効活用」
(仙台・前田美津雄)

○優秀賞

「県産材を利用した仮設用材(敷板)について」
(栗原・勝呂元)

「治山工事における県産材利用の検証」(栗原・佐々木淳)

なお、最優秀賞を受賞した前田さんは、九月二日に盛岡市において開催された北海道・東北地区第四十七回治山・林道研究発表会において発表し、優秀賞を受賞した勝呂さんは、九月二十八日開催の第五十回治山研究発表会において発表し、それぞれ高い評価をいただきました。



最優秀賞・優秀賞の受賞者

(林業振興課)

林道「女川京ヶ森」線の 開設状況について

林道「女川京ヶ森」線は、女川町女川浜地区と石巻市沢田地区とを結ぶ延長一万七百米、幅員五メートルの二級林道です。当路線の利用区域は千九百九十九号(うち人工林六百五十八号)であり、開設後は当区域の森林整備に活用されるとともに、女川町と石巻市を結ぶ唯一の幹線道路である国道三九八号線を補完する路線として、災害時には避難路の役割も期待されています。

当路線は、平成九年度から平成二十七年までの予定で開設工事を進めておりますが、今年度で石巻市沢田字折立山地内から女川町浦宿浜地内までの五千三百五十二メートルについては完成し、平成二十三年度から一般に供用を開始する予定となっております。

供用開始予定区間には、京ヶ森(標高二百八十一メートル)への登山道や、万石浦のビューポイントも存在するため、供用後は観光道路としても利用されるものと思われませんが、林業施業用車両が通行するほか、近年生息域を拡大しつつあるニホンジカも道

路を横断することがありますので、走行の際には十分な注意が必要です。

本工事における工法的な特徴としては、林道用地の縮小と切土・盛土量の減少を図るために「大型アーチカルバート使用による既存林道との立体交差」や「補強土壁工」を施工していることのほか、現場で発生する根株等をチップ化して法面保護の基材として再利用する「資源循環型吹付工」を行っております。全線開通まではまだ数年かかりますが、安全な工事施工に努めて参ります。



女川京ヶ森線 計画図

(東部地方振興事務所)

研究情報コーナー 加美町天然記念物指定『鹿島神社・御神木スギ』の後継樹を養成

○取り組みの経緯

平成二十二年九月六日夜に発生した突風によって、加美町にある鹿島神社境内に立っていた、同町の天然記念物に指定されている樹齢四百年を超える御神木スギの大本が倒れました。

宮城県林業技術総合センターでは、宮城県北部地方振興事務所からの技術的な要請を受け、さし木増殖による後継樹を養成することにしました。

■倒木したスギの大きさ
(一九七八年町天然記念物指定時)
◇樹齢四百年 ◇樹高三十五メートル
◇胸径直径一・二メートル
◇根元直径一・七メートル



倒木した御神木スギの測定

※宮城の巨樹・古木(発行河北新報社)より

○後継樹養成の作業手順

一 さし木をするためのさし穂の採取

平成二十二年九月九日に加美町四日市場「鹿島神社」の倒木したスギの上部から、比較的生育が旺盛で活力があると判断される枝先から剪定ばさみを使用し、枝の長さ二十〜三十センチのさし木用のさし穂約六十本を採取しました。それをセンターへ持ち帰り、流水に一晩浸しました。

二 さし穂づくりとさし付け

翌日、センター内で一晩流水に浸した枝を、さし付けするために十五センチ程度に切り戻しを行いさし穂を作りました。

その後、枝の切り口に発根促進剤(オキシベロン)・五粉剤を塗布し、さし木用施設のミストハウスのさし床(用土・パライト)に六十本さし木を行いました。

なお、当日は多くのテレビ並びに新聞社からの取材がありました。

○ミストハウス「さし木」の管理方法

さし木した枝が通常発根するまでには二〜三ヶ月かかります。これから気温が徐々に下がっていきますので、さし付け床は電熱線で保温(二十三度前後)し、また適時散水(一日十回、三十秒/回)して、年内に発根するように管理していきます。

なお、当センターでは少・低花粉スギ品種のさし木苗の生産を行っています。さし木は三〜四月に実施しています。



さし穂の採取



○さし木の発根確認と育苗

さし木した枝が発根したかどうかは、平成二十三年春に掘り起こして確認します。

当センターでの少・低花粉スギのさし穂は採穂園から採取し、発根率は約八割程度となっております。今回の御神木のスギは、高齢木で樹勢も弱いことから、発根率は相当低くなるものと予想されます。

今回、さし木して発根した苗木は、来春に苗畑へ移植し、苗木の大きさ五十センチ程度まで育成してから、鹿島神社へ御神木の後継樹として戻すこととなりますので、それまで大切に管理育成していきます。

なお、詳しくはセンターのホームページに掲載しておりますのでご覧ください。



(林業技術総合センター 環境資源部)

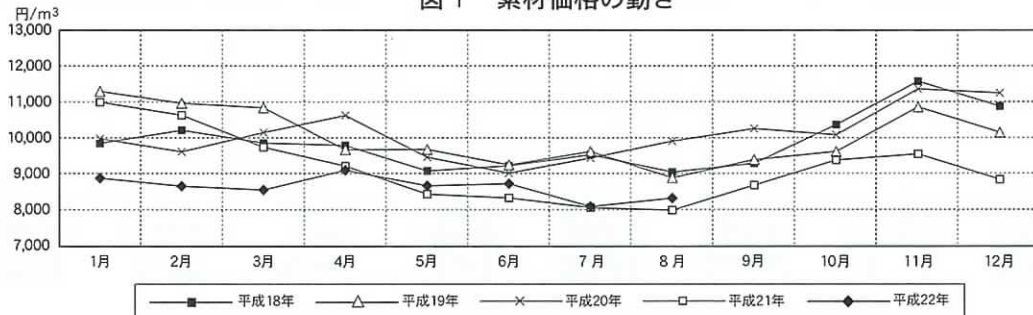
木材市況の動向

表1 各共販所別木材市況 8月

樹種	材長 m	径級 cm	価格(中値 単位:円/㎡)					
			仙南	石巻	仙北	東和	大衡	津山
スギ	3.00	14~16	9,000	—	—	—	—	—
	4.00	10~13直曲	8,640	8,640	8,640	8,280	8,280	7,200
		14~18	9,000	8,640	8,640	9,000	8,640	8,280
	3.65 ~4.00	20~28	9,360	9,000	9,720	9,720	9,720	9,720
		30上	9,360	9,360	9,720	9,720	9,720	9,720
2.00	14上	6,120	6,120	6,120	6,120	6,120	6,120	

資料: 県森林組合連合会

図1 素材価格の動き



素材: 県森連共販所市況(平均価格)

特産市況の動向

表2 生しいたけ価格の市況

単位: 円/kg

年次	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平成18年	1,024	948	692	913	833	799	763	776	869	820	865	1,064
平成19年	962	869	884	843	774	664	684	877	887	856	922	1,060
平成20年	977	990	959	903	836	771	760	773	870	846	968	964
平成21年	973	893	886	884	770	716	719	760	741	840	791	844
平成22年	936	840	783	760	710	661	667	786				

資料: 仙台中央卸売市場

図2 生しいたけ価格の動向

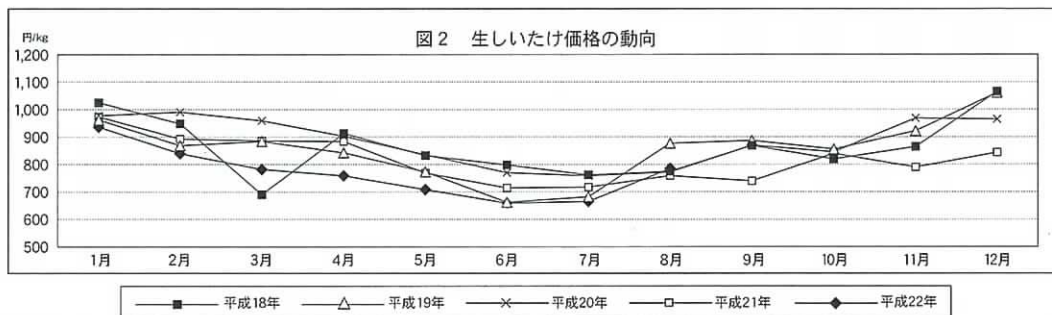


表3 宮城県の新設住宅着工戸数

項目	総数	木造戸数	非木造戸数	木造率(%)
平成21年8月(戸)	953	715	238	75.0
平成22年8月(戸)	1,415	796	619	56.3
前年同月比(%)	148.5	111.3	260.1	—
平成21年1~8月	7,481	4,985	2,496	66.6
平成22年1~8月	8,065	5,462	2,603	67.7
前年同期比(%)	107.8	109.6	104.3	—

資料: 住宅着工統計

概況

新設住宅着工戸数

新設住宅着工数は、前年同月比、前年同期比とも上回っている。

政府の景気対策により、本県は持ち家や分譲住宅が堅調に推移しており、マンションの着工も3ヶ月振りにあった。

素材動向

製品市況が横ばい傾向にあるため、素材価格も横ばい傾向にある。暫くは、今の価格での動きが予想される。

国産材(生産販売)、木材チップ生産
製材業、伐出造林請負



宮城十條林産株式会社

代表取締役 亀山 征弘

本社 〒980-0871
仙台市青葉区八幡3丁目2番7号
☎仙台(022)261-2151(代) FAX(022)261-2150
営業所 気仙沼・栗駒・飯野川・大和・白石・郡山・岩出山
工場 気仙沼・栗駒・白石・岩出山
関連会社 宮十運輸株式会社・宮十道園土木株式会社
株式会社宮城環境保全研究所

明治41年創業
～100年かける家づくり～



自然との共生循環をテーマに、
私たちは森を愛し大切に育てています。

〒989-1601
宮城県柴田郡柴田町船岡中央 1-9-12
TEL(0224)58-1100 FAX(0224)58-2252
www.web-sakamoto.co.jp

次代へ進むメーカーと共に技術で、商品で、ニーズに応えます。
製材機械・木工機械・林業機械・プレカット・集成材プラント・乾燥機は

信頼の高い筒井鋼機株式会社へ

筒井鋼機株式会社

本社 仙台市青葉区花京院二丁目2-22 TEL022-224-1261・FAX022-265-9231
盛岡営業所 盛岡市青山四丁目47-32 TEL019-641-7713・FAX019-641-7807
郡山営業所 郡山市田村町金屋字新家34-1 TEL024-944-5912・FAX024-943-5987

E-mail info@tutuikoki.co.jp

U R L <http://www.tutuikoki.co.jp>

目的は自然にやさしいリサイクル緑化です。

道路法面・山腹崩壊地等の緑化工事にPMC緑化工法

日本リサイクル緑化協会 東北支部

〒981-0132
宮城県宮城郡利府町花園一丁目1番地の2
TEL・FAX (022)767-8180

山を活かして、海を豊かに

ウッドアンドシェル緑化工法

現場発生、伐採・伐根材のチップ+カキ殻を
緑化基盤材として有効利用する緑化工法です。

W&S 緑化工法研究会

陽光建設株式会社
仙台市太白区西多賀3-8-10 電話 022-307-1066
佐藤工業株式会社
社鹿郡女川町鷲神浜字鷲神193-1 電話 0225-53-2365

見て触れて 住んでしみじみ 木の住まい
宮城県木材協同組合

理事長 高橋 義宣

宮城県木材需要拡大協議会
会長 高橋 義宣

みやぎ材利用センター
会長 渋谷 正志

〒981-0908 仙台市青葉区東照宮1-8-8
TEL: 022-233-2883 FAX: 022-275-4936

財団法人 佐々君治山報恩会

理事長 尾花 健喜智

事務局 長 佐々木 治樹

〒989-6165 大崎市古川十日町4番14号
TEL (0229) 22-1281
FAX (0229) 22-1281
E-mail: sasakimi@proof.ocn.ne.jp

宮城県木材チップ協同組合

代表理事	亀山征弘
専務理事	山田勝利
理事	亀山武弘
理事	佐々木市夫
監事	小山松夫
監事	阿部貢

〒980-0871 仙台市青葉区八幡三丁目2番7号
電話 022(261)2151 FAX 022(261)2150

宮城県木材チップ工業会

会長	笹森篤
副会長	亀山征弘
副会長	中鉢米孝
副会長	奥津文男
副会長	永井政雄

ほか理事一同

〒980-0871 仙台市青葉区八幡三丁目2番7号
電話 022(261)2151

も り

未来に向けた森林づくりへ邁進 元気な森林資源を次世代へ

— 森林整備法人 —

社団法人 宮城県林業公社

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4番17号
TEL (022)275-9171 FAX (022)275-9172
E-mail : miya-rin@violin.ocn.ne.jp

<http://www16.ocn.ne.jp/~miya-rin/>



緑の募金で
ふせごう地球温暖化

あなたも「緑の募金」運動に参加しませんか。



店頭の募金箱

事務所、店舗等カウンターへの「緑の募金箱」の設置



社団法人宮城県緑化推進委員会

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17 宮城県仙台合同庁舎内
TEL.022-301-7501 FAX.022-301-7502

農林中金は、「森林再生基金」の取組み(創立80周年記念事業)等を通じ、大切な森林資源の維持・確保に向けた取組みを積極的に支援しています。

農林中央金庫 仙台支店

〒980-0011 仙台市青葉区上杉一丁目2番16号(JAビル宮城内) ☎022(711)7531(代)

私たちは森林づくりのプロフェッショナルです。ご相談はお近くの森林組合に！

JForest 宮城県森林組合連合会

森林組合系統の新しいロゴマークです

仙台市青葉区上杉2丁目4-46
TEL022-225-5991 FAX022-225-5994

■優良品みやぎ材の原木は

仙南木材センター 0224-65-2166	東和木材センター 0220-45-2240
大衡綜合センター 022-345-2205	津山木材センター 0225-68-3038
岩出山木材センター 0229-72-1877	石巻木材センター 0225-95-6065

■樹木の枝や根の有効利用は ウッドリサイクルセンター 022-345-6041

発行 宮城県林業振興協会 仙台市青葉区堤通雨宮町四番十七号 ☎022-301-7501
編集協力 宮城県農林水産部林業振興課

林業の今を伝える月刊誌

平成23年度の購読申込受付中!!

森林技術

A5判 80頁
年間購読料 5,200円(送料込み)
月刊「現代林業」は、「現場主義」をモットーに、林業のトレンドをリードする雑誌として長きにわたり「オピニオン+情報提供」を展開してきました。本誌では、地域レベルでの林業展望、再生産可能な木材の利活用、山村振興をテーマとして、現場取材を通じて新たな林業の視座を追求しています。

森林技術

B5判 48頁
年間購読料定価 3,500円(送料込み)
森林・林業関連情報の迅速な会員への伝達、今日的技術課題の解説、新技術の紹介等を中心に、会員の技術向上に資することを目的に編集・発行しています。大正11年創刊。

GR 現代林業

A5判 80頁
年間購読料 5,200円(送料込み)
月刊「現代林業」は、「現場主義」をモットーに、林業のトレンドをリードする雑誌として長きにわたり「オピニオン+情報提供」を展開してきました。本誌では、地域レベルでの林業展望、再生産可能な木材の利活用、山村振興をテーマとして、現場取材を通じて新たな林業の視座を追求しています。

GR 現代林業

地域材戦略をコーディネート
「特集」森林経営を支援する普及活動

林業知識

林業新知識

B5判 24頁
年間購読料 2,800円(送料込み)
1953年の創刊以来、全国の林業関係者、森林所有者に愛読され、業界随一の発行部数を誇っています。そのコンセプトは、「農山村に暮らし働く人にスポットを当て、さまざまな話題や情報を、写真、イラストをふんだんに使いながらわかりやすく紹介することです。関係者はもとより、森林・林業に興味のある方々にも納得していただける月刊誌です。」

山林

A5判 66頁
年間購読料定価 3,500円(送料込み)
会誌「山林」は、明治15年1月の本会創立とともに刊行され、以後一回の欠号もなく発行をつづけ、既に1400号を超えています。したがって、本誌は、明治以降のわが国林業の生き証人としても高い評価を得ています。

山林

No. 1506 大日本山林会 2009

図書申込、問い合わせは

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17 宮城県仙台合同庁舎10階 宮城県林業振興協会
TEL 022-301-7501 FAX 022-301-7502